

「シンフォニエッタ静岡」が2017年6月8日に第3回東京定期公演を開催



静岡県を拠点に活動するプロオーケストラ「シンフォニエッタ静岡」（所在：静岡県焼津市、代表理事：植田明美、芸術監督：中原朋哉）は、[2017年6月8日（木）](#)に横浜みなとみらいホールにて第3回東京定期公演を開催する。

<http://www1.odn.ne.jp/ssj/>

本公演では、世界的オンド・マルトノ奏者の原田節氏を迎え、2015年から開始した「オンド・マルトノ

プロジェクト」の第3弾として、ジョリヴェ：デルフィク組曲（オンド・マルトノ、管楽器、打楽器とハープのための作品）を紹介する。本プロジェクトは原田氏とともに5年間かけてオンド・マルトノの重要な作品とオンド・マルトノの魅力を紹介するもの。（2015年＝ジョリヴェ：オンド・マルトノ協奏曲、2016年＝J. シャルパンティエ：小協奏曲、原田節：Olive Rain）

また当楽団芸術監督の中原朋哉とも親交のあるフランスの作曲家、ギョーム・コネッソン（1970～）の作品より、弦楽四重奏（日本初演）、などの室内楽作品を取り上げる。六重奏曲では、ジョリヴェでオンド・マルトノのソリストを務める原田節氏がピアニストとして登場する。

一回券は[2017年1月21日](#) 発売開始。年間セットの定期会員券も販売中。

■シンフォニエッタ 静岡 第3回東京定期公演（第49回定期公演）
～フランス音楽の現在～

【日 時】[2017年6月8日（木）](#) 開演19:00 開場18:30

【会 場】横浜みなとみらいホール 小ホール（神奈川県横浜市）

【指 揮】中原朋哉（シンフォニエッタ 静岡 芸術監督・指揮者）◆

【オンド・マルトノ＆ピアノ】原田節（ハラダタカシ）★

【曲 目】ラヴェル：弦楽四重奏曲よりⅠ（オンド・マルトノと弦楽四重奏による）★

ジョリヴェ：デルフィク組曲（オンド・マルトノ、管楽器、打楽器とハープのための）◆★

コネッソン：弦楽四重奏曲（日本初演）

コネッソン：ディスコ・トッカータ

コネッソン：トッカータ・ノクテュルヌ

コネッソン：六重奏曲 ★

【入場料】一回券（全自由席）[2017年1月21日](#) 発売開始

〔一般〕 早割¥4,000 普通¥5,000

〔学生〕 早割¥1,000 普通¥2,000

【チケット取扱】

・シンフォニエッタ 静岡（早割・学生の取扱あり）

<http://www1.odn.ne.jp/ssj/>

電話 054-204-7778 FAX 054-204-7773

・チケットぴあ Pコード321616（一般普通料金のみ）

※サントリーホールが改修工事のため、本会場にて行います。

【シンフォニエッタ静岡 プロフィール】

2005年創立。日本音楽コンクール優勝者、国際コンクール入賞者をはじめ、国内外で活動する楽団員によって構成し、静岡県内全域を主な活動地域としている。芸術監督・指揮者は焼津市出身でヨーロッパ経験も長い中原朋哉。フランスの地方オーケストラのような音色を持ち、プロオーケストラとしては国内で唯一バソン（フランス式ファゴット）の定席がある。

2012年には作曲後86年間演奏されずにいたフランスの作曲家ポール・ラドミローの「交響曲」の世界初演や、2010年プーランクのオペラ「声」における美術とのコラボレーションはいずれも高い評価を得た。2015年からはオンド・マルトノ奏者 原田節とのプロジェクトも開始した。

シンフォニエッタ

静岡の公演は、これまでのオーケストラの常識を打ち破るものとして注目を集めている。これらさまざまなアイデアは静岡県内外の文化施設や他の音楽団体にも大きな影響を与えている。また、プロの演奏家だからこそ出来る教育活動にも重点を置き、楽団員だけでなく、定期公演のソリストと共に、山間部にある小規模校での公演やワークショップ事業を行う。特に「0歳からのファミリーコンサート」は高い人気を得ている。

2014年5月

より一般社団法人へ改組し、更に公益性の高い団体として活動の場を広げて行くことが期待されている。

2015年1月、創立10周年を機に、サントリーホール

ブルーローズにおいて東京定期公演を開始した。

これまでに滅多に聴く機会の少ない優れた作品も積極的に紹介しており、日本初演作品も多く、静岡県内だけでなく全国のクラシック音楽愛好家から注目を集めている。

音楽により人々が明るく豊かな生活を送ることが出来るために事業を行い、静岡県を発信の拠点とし、国内の芸術文化振興とまちづくりに寄与することを目的としている。

【芸術監督・指揮者 中原朋哉 プロフィール】

1973年愛知県小牧市生まれ、静岡県焼津市に育つ。

作曲を長谷川勉、伊藤康英、後藤洋の各氏に学んだ後、フランス・ディジョン音楽院指揮科にてジャン＝セバスチャン・ベロー氏に師事。1993年からはフランスおよび日本においてパスカル・ヴェロ氏のアシスタントを務める。

1996年23歳という若さで名門フランス国立リヨン管弦楽団定期演奏会、グルノーブル音楽祭に同管弦楽団史上最年少指揮者としてデビュー。その演奏は、全国紙フィガロの

「柔軟で完璧な演奏をする、奇跡とも思えるほど驚くべき才能を持った指揮者である。」との評をはじめ、高い評価を得た。

後にフランス国立ペイ・ドゥ・ラ・ロワール管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団（モーツァルトの未亡人が創設したオーケストラ）においてユベール・スーダン音楽監督のア

シスタントを務めた。

フランスの近・現代作品の紹介に力をいれており、中でも[2005年7月](#)

、グランシップ大ホールにおいて、20世紀を代表する作曲界の巨匠、アンリ・デュティユーのヴァイオリンと管弦楽のための夜想曲” Sur le meme

accord” の日本初演をフランスの名ヴァイオリニスト、オリヴィエ・シャルリエと行い、その演奏は作曲者からも高く評価された。また、知られざるフランスの作曲家ポール・ラドミローの遺族とも親交があり、多くの作品を紹介している。

更に、ウィーン古典派（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン）の演奏、特にモーツァルトにおいては、「日本人とは思えないほど、モーツァルトの血を受け継いでいる。」「日本人だということを忘れさせる程、私たちの音楽を深く理解している。」と、現地の音楽家からも厚い信頼を得ている。

2002年に帰国。静岡県内を中心に、ヨーロッパのアーティストの招聘事業をはじめ、2005年には、国内外のトップアーティストを中心に構成されるプロの室内オーケストラ「シンフォニエッタ静岡」を創設。創設時より芸術監督・指揮者を務めている。群を抜いた企画力、選曲・プログラミングには定評がある。

演奏活動のほかに、5年間に渡りラジオのクラシック音楽番組のパーソナリティを務めたほか、オペラ・音楽劇の演出、学校・公民館・企業での講演、市民大学講座の講師など、あらゆる世代に向けた、クラシック音楽の啓蒙活動も行っている。更に、第24回国民文化祭しずおか2009静岡県企画委員、公共文化施設の設計にも携わるなど、多彩な活動を展開している。

[2015年4月](#)

より静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科において、芸術団体がより良い環境で活動を展開することが出来るよう研究を行っている。日本公共政策学会、音楽芸術マネジメント学会会員。

【代表理事・楽団長 植田明美】

1976年奈良県生まれ、静岡県藤枝市出身。藤枝東高校、中央大学総合政策学部政策科学科卒。

▼報道関係のお問い合わせ、取材のお申込みは

下記までお気軽にご連絡ください。

一般社団法人シンフォニエッタ静岡 代表理事 植田明美

TEL : 054-204-7778 / 090-9940-6995

FAX : 054-204-7773

E メール : fukumimissj@gmail.com

サイトURL : <http://www1.odn.ne.jp/ssj/>

Generated by ぷれりりプレスリリース

<https://www.prerele.com>